



CONTENTS

「続けよう 続けたい」.....	01
新人ボランティア合同研修会 開催.....	02
国際エイズ会議レポート @ウィーン.....	03
みんなで「できる!」キャンペーン.....	04
部門報告(2010年7~9月).....	04
ぷれいす東京の事務所が引っ越しました.....	08

「続けよう 続けたい」

宮田 一雄

12月1日の世界エイズデーを中心にした国内のエイズ啓発キャンペーンのテーマが、今年は『続けよう Keep the promise, Keep your life』に決まった。厚生労働省とエイズ予防財団が主唱する毎年のテーマにはこれまで、「どうやって決まるのか分からない」「何を伝えたいのかわからない」といった批判があった。エイズ対策の現場ともいえるべき場所で、輝かしくも困難な活動を続ける「ぷれいす東京」をはじめ、さまざまなNPO、NGO、CBOとキャンペーンの間の冷やかな関係も、公的に発せられるメッセージのいかわしさ、よそよそしさの故かもしれない。

遅ればせながらも「これはまずい」という議論が春ごろからエイズ予防財団の担当者レベルで生まれ、及ばずながら私も財団理事の一人として関与することになった。小さな変化ではあるが、エイズ対策のあり方にもかかわる課題として経緯を報告したい。

プロセスを重視

5月に「決定に至る意見やアイデアを広く出し合う枠組みを創設する場」としてコミュニティに立脚した公開フォーラムを2回開催。6月にはテーマ候補選定のためのワーキンググループ(WG)を2回、開いた。WGはエイズ予防財団、厚生労働省担当者に加え、日本HIV陽性者ネットワークJaNP+の長谷川博史氏、Rainbow Ringの張由紀夫氏を外務委員として迎え、東京都の担当者もオブザーバーで参加した。私が叩き台を作成し、外務委員2人を中心にした議論を経て候補は2案に絞られた。わが国のエイズ対策の現状とメッセージの方向性について中身の濃い議論が得られたことの意義は大きい。詳しくはHATプロジェクトをご覧ください。(注1)

第1案 「続けよう Keep the promise, Keep your life」
第2案 「みんな ぷつうに生きている」

第2案は《エイズと取り組むことは「みんな」とか「ぷつう」といった発想を疑い、「みんな」が誰で、何が「ぷつう」なのかを問い続けることだ》との意図を持つ案だった。

ただし、その意図とは逆のかたちで「みんな」や「ぷつう」が使われるリスクが高いとの危惧も指摘され、上記2案の優先順位が決定。この2案をエイズ予防財団から厚生労働省に提案し、第1案がテーマに決まった。

今年のテーマは関連説明部分の字数が多く、読みきれないよという批判もある。だが、いったい何を「続けよう」なのか、どうして続けるのか。それが伝わらなければ、再び意図不明確のそしりを免れない。それもまずい。受け手には少々、ご苦勞をおかけするが、チラシやAPI-Net(注2)に掲載されたメッセージの全文をお読みいただきたい。できれば、皆さんが計画されるイベントや会合でも「続けよう」を活用してほしいと思う。

今後の課題

第一に、今回はフォーラムの規模が極めて小さかった。「決定に至る意見やアイデアを広く出し合う枠組みを創設する場」をもっと広げていく必要がある。その結果、テーマ選定プロセス自体がエイズ対策への理解を広げるキャンペーンにもなるといったライブ感覚が生まれることを期待したい。

二番目に、今回はテーマ決定のプロセスに重点を置いた。じゃあキャンペーンの中身はどうなのという議論は当然ある。テーマと連動したキャンペーン展開は課題として残った。「おっ、このテーマいいね」という個人、団体がテーマを利用しやすい環境を整え、参加型キャンペーンを広げていけないだろうか。

三番目には、こうしたプロセスをもとにエイズ対策のプラットフォームを生み出すことだ。国連エイズ合同計画(UNAIDS)などが呼びかける「Three Ones(3つの統一)」原則のひとつに「統一された実施主体」がある。行政、NGO、企業などが多様な立場で参加できるプラットフォーム型の主体を目指したい。

(注1) HATプロジェクト
http://asajp.at.webry.info/201006/article_3.html

(注2) API-Net
http://api-net.jfap.or.jp/event/aidsday/2010/H22campaign_theme.html

新人ボランティア合同研修会 開催

2010年度の新人ボランティアの合同研修が、9/11(土)のオリエンテーションに引き続き、9/20(月・祝)、9/23(木・祝)、9/26(日)の3日間、豊島区立生活産業プラザにて開催されました。研修の報告と参加者の感想文をお届けします。

今年もぶれいすの9月の恒例になった、ボランティアの新人研修を行いました。気がつく、本当に早いもので今回で9回目を迎えました。10年近く続けていると、そろそろ今年には新人が集まらないんじゃないか、HIVに対する興味関心は低くなっているのでは、という不安がよぎるのですが、今年もその不安を裏切る、多くの参加を得ることができました。オリエンテーションに27名が参加、その後研修を受けて、ボランティア登録された方が23名になりました。

今年は、これまで週に1~2回×3回にしていた日程を、1週間の中で3回も続けて行ったので、これまで以上にハードだったのではないかと思います。参加者のみなさまはいかがだったのでしょうか。本当にお疲れ様でした。これから各部門での研修、ミーティング等があると思いますが、ぜひ細く長く楽しく、ついでに私のようにしつこく活動していただくとうれしく思います。これからもよろしく願います。(文責:まきはら)



グループごとのワーク

参加者感想文

「血が騒いだ」

ゆうじ

今回の研修では多くの事を勉強させて頂き、有難うございました。感想をちょっとだけ書かせて頂きます。

まずは受講者同士で行なった種々のワークです。ワークは関連した時々の環境の中で、自分で考えコミュニケーションしなければならず、それが今後の活動をスムーズに行なっていくための良い経験になったのではと感じました。

次は池上様の、「貞操が感染予防にならない」というお話です。これは、それまで私が考えていた事を覆しました。私は、1:1の交際(1が1が制)を皆が守れば感染予防になると思い込んでいました。...今でも...?

そして最後に、血が騒いだお話です。これまで私は現実の社会問題に直接係わる仕事をした事はありませんでした。新鮮な気持ちで講義を聞いていましたが、その中で事はウイルスだけでなくステイグマと言う根深い問題もつきまわっていると知り、途端に血が騒ぐ自分を発見しました。俄然張りきって活動を行なって行きたいと思えます。よろしく願います。

「目からうろこの3日間」

マリア

医療従事者の立場から、何か人の為になるような活動は出来ないものか、と思い今回、新人ボランティア研修に参加させて頂きました。当初は参加の申し込みはした

	9月20日(月/祝)	9月23日(木/祝)	9月26日(日)
午前	グランド・ルール 社会的な背景 池上	グランド・ルール 医学的基礎知識 性感染症の基礎知識 福原	グランド・ルール HIV感染後の生活と 社会サービス 牧原
	医学的基礎知識 HIVの基礎知識と 検査法 福原	セクシュアリティの 多様性について 砂川	ピア・サポートの 取り組み 矢島
午後	エゴグラムと 交流分析 野坂	プライバシー について 池上・生島	相手のある保健行動 ~コンドーム使用と 使用依頼~ ワークショップ ロールプレイ 講義 池上
	手記を読むワーク スタッフ	セイファークス リスクアセスメント 生島・スタッフ	3日間の振り返り 今後の活動について
	振り返り	振り返り	

ものの、3日間の(それも1週間に!)研修は長いし、知識は多少持ってるからなあ...的な、お恥ずかしながら頭でっかちな態度で研修に参加致しました。

結果、目からうろこの3日間でした!心に沁みてくることが多すぎて、うまく消化しきれないのですが、普段あまりすることのないワークショップで、当事者という立場に立って人の話を聞いたり、発言することが如何に難しいかということ、思っている以上に自分は自分のセクシャリティーを基準にした固定観念を持っているということに気付かされました。様々な価値観を持った方々と研修をしたことで、いつもと違う自分に気付けたような気がします。

このような機会を与えて下さいました講師、スタッフの皆様ありがとうございました。これから気付いた事、感じた事をじっくり消化して自分の血肉とし、皆さんと共に活動していければと思っております。

「Vの4性『自発性』『無償性』『公益性』『継続性』」 テン

HIVボランティアについて自分に何かできることはないかと思って研修に参加させて頂きました。HIVだけではなく性感染症など医学的な基礎知識から、セクシュアリティ、自分の性格まで、内容の濃い研修でした。

3日間の研修後、日程ごとの目標を再確認したところ、当たり前のことですが、全てのトピックが研修の目標に繋がったことが改めて分かりました。講師の話やワークショップを通して、自分の考えや感じたことを人に伝えたり、逆に人の話を聞いたりすることで、いい意味でボランティアについていろいろと考えさせられた3日間でした。

国際エイズ会議レポート @ウィーン

第18回国際エイズ会議が、7月18日～23日にウィーンで開催されました。「Rights Here, Right Now(いますぐ、ここでこそ、人権を)」のテーマのもと、世界197カ国から19,300人が参加して行われ、ぶれいす東京関連からも会議に参加、ポスター発表を行っています。

「発表することで広がるネットワーク」

生島 嗣

今回の国際エイズ会議には、10,831投稿があり、6,238が採択されたという。厚生労働科学研究：地域におけるHIV陽性等支援のための研究グループからは、生島、若林、大槻が3題をポスターにて発表した。閉会式で3人で驚いたのだが、社会系の投稿の55%が不採用であったらしい。社会系の演題は、口頭発表が53題、ポスター&討議による発表が45題、ポスター発表が1516題であった。

7月21日(水)

QOL and Socioeconomic Background of People Living with HIV: a nationwide survey in Japan

若林 チヒロ(埼玉県立大学)

Working Environment for Female PLWH/A in Japan

大槻 知子(エイズ予防財団/ぶれいす東京)

7月22日(木)

Evaluation of AIDS-related Measures by People Living with HIV/AIDS in Japan 生島 嗣(ぶれいす東京)

成果としては、国際労働機関(ILO)のスタッフがとても興味をもって来て、ぜひ英語の報告書が欲しいと声をかけられた。また、ヨーロッパの研究者からは、指標をそろえないかと声をかけられたりしたことがあげられる。また、日頃話すことが少ない日本からの参加者との交流も貴重であった。

「地域に根ざした国際会議」

大槻 知子

今回の国際エイズ会議は、歴史的・地理的にホスト国オーストリアと関係の深い東欧地域でも広がりを見せる薬物使用とHIVの問題、そして人権に基づいた包括的なHIV/AIDS対策を推進するアプローチに大きな注目が集まっていました。また、主要国政府あるいは製薬企業などに対するデモや集会在会議場内外で行われるなど、さまざまな強いメッセージが発せられていました。

一方、国民議会やウィーン市庁舎など市内のランドマークに大きなレッドリボンのディスプレイがあったり、交通機関の各ターミナル駅に会議場までの道のりを丁寧に記した会議参加者向けの案内が出ていたり、会議開催を歓迎し、街ぐるみで盛り上げようとするウィーンのあたたかな雰囲気も伝わってきました。なかでも印象的だったのは地域と連携した会議プログラムの数々で、わたしも地元でパティ活動を行っているBuddy Vereinという支援団体を訪問し、スタッフの方と交流する機会を得ました。また、地元のレズビアンやゲイらのボランティア・ガイドによるQueer Vienna Cityというバスツアーがあり、ウィーンの観光名所を巡りながら、オーストリアにおけるLGBTやHIV/AIDSの歴史をまとめて学べるという、朝から晩まで会議場に缶詰で外で観光する時間がない参加者にもってこいの企画もありました。

避暑地のイメージとは裏腹に滞在中は猛暑に見舞われたウィーンでしたが、たくさんのパワーとインスピレーションをもらった6日間でした。



ポスター発表をする生島(中央)と若林氏、ILO関係者
(写真提供: 杉山正隆氏)



現地のHIV/AIDS支援団体を訪問した際の団体スタッフらとの集合写真



ウィーン市庁舎正面にはレッドリボンが飾られ、イベントも開催された。
(写真提供: 杉山正隆氏)



主要国がHIV/AIDS対策への資金拠出を減らしていることに抗議する活動家たちのダイ・イン

みんなで「できる！」キャンペーン

～アウトリーチ・プログラムの新たな協働～

6月に行われた「MSMスタッフワークショップ」(66号参照)の後で、「エイズ予防のための戦略研究」の資料などのアウトリーチにぶれいす東京も協力を、という話がありました。ワークショップでは新宿以外の地域へのアプローチの話題も出ており、良い機会なので、Gフレはもちろんなワークショップに参加された他部門のスタッフにも声をかけて参加したところ、団体の枠組みを超え、多様なスタッフが集まるとも面白いプロジェクトになりました。(sakura)

「バーやハッテン場のアウトリーチに参加して」 蓮
バーへの配布では、上野と言う街は昔飲み歩いた所なので、「エイズのキャンペーンでコンドームの配布に来ました」こんな感じでドアを開けると、「しばらく”生きていたんだ”昔の罪滅ぼし”などいろいろいわれて(笑)。エイズと言う言葉にも嫌悪感は無くなっているらしく、ダイレクトに伝わると思い、あえて言ってみたりして。ポスターやコンドームの評判はすこぶる良く、特にコンドームは“お客さんとの話題に使える”とか街自体すごく好意的でした。

発展場への配布は、どんな発展場があるのが興味50%(笑)。ドアを開けたら全裸の男性がいたり(喜)。後で来なくてとはか思ったりして(汗)。リサーチ(?)もかねて発展場に行ったら、今まで気づけなかったけど、たしかにポスターもリーフレットもあり、煙草を吸いながら手に取る人もいて“なるほど”とか。バーでマスターからリーフレット貰っている人がいて、毎月貰っているとか。

パレードや、配布アウトリーチなどに参加して、40～50代の参加がもっとあれば良いのに、休日にイケメンスタッフ(?)と街を散策しながらの配布は超一楽しいし刺激もたくさんあるからぜひ参加して下さい。

協力して頂いたお店に感謝感謝、今後とも宜しくお願いします。

「ハッテン場配布のこれまでとこれから」

柴田 恵(Rainbow Ring)

Rainbow Ringは立ち上げの時からハッテン場へのアプローチを重視してきました。特に、2006年の2月からあしかけ4年半、毎月1度主にレンタカーを利用して都内のハッテン場に直接資材を配布。この方法は少人数でも可能で楽しいのですが、実は道順を覚えたりなど専門性が求められることがだんだんと明らかになりました。活動の広がりが見えなかったんです。参加メンバーの負担がじょじょに増大して、2010年夏には継続が難しい状況にありました。

これが多人数での電車+徒歩での配布となった結果、「あ、他にも一緒にやってくれる人いたんだ」というごくあたりまえのことに改めて気づき、まずはちょっとほっとしました。さらに、ぶれいすやSHIPなどから多様なメンバーが参加したことで、今まで対応が難しかったお店があっさり対応してもらえたり、歩いて回る道の途中に新しい発見があったり、新たな交流や可能性が生まれたことを実感しています。まだまだ課題もあると思うんですが、改めてがんばれそうと思ったのです。

部門報告

(2010年7～9月)



ホットライン

エイズ電話相談 ぶれいす東京および東京都委託)

相談実績報告

—ぶれいす東京エイズ電話相談—

	7月	8月	9月
日数(日)	4	5	4
総時間(時間)	16	20	16
相談員数(延べ人)	5	7	5.5
相談件数(件)	28	52	37
うち(男性)	26	44	33
(女性)	2	8	4
陽性者相談	2	0	0
要確認相談	1	0	0
1日平均(件)	7.0	10.4	9.3

—東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	7月	8月	9月
日数(日)	14	13	12
総時間(時間)	42	39	36
相談員数(延べ人)	36	34	32.5
相談件数(件)	227	240	234
うち(男性)	194	205	196
(女性)	33	34	38
陽性者相談	1	1	1
要確認相談	0	4	1
1日平均(件)	16.2	18.5	19.5

性別不明(8月)1件

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

- 7月 18日 世話人会(7名)
スタッフミーティング(10名)
活動報告書入力業務慰労会(10名)
- 8月 13日 東京都電話相談連絡会(3名)
フォローミーティング(5名)
15日 世話人会(7名)
スタッフミーティング(18名)
- 22日 フォローミーティング(3名)
- 9月 10日 東京都電話相談連絡会(3名)
11日 合同研修オリエンテーション(1名)
12日 世話人会(7名)
スタッフミーティング(16名)

相談件数は安定していましたが、3ヶ月を通して低調でした。陽性者関係の相談は、難しいケースが多くかかってきました。合同研修が修了して、これから部門研修の季節ですが、今年は事務所の移転がありましたので、例年より遅くスタートの予定です。(報告:佐藤)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング(7-9月実績)

- 7/3:4人 7/15:4人 8/5:中止 8/19:3人
- 9/4:4人 9/16:5人
- 個別ミーティング 7件

利用者数

7カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の12名の方に15名のバディスタッフを派遣

活動内容(2010年9月末現在)

派遣継続中	18件
在宅訪問	11件
病室訪問	1件
派遣休止	5件
検討中	1件

7月~9月中の動き

- 新規派遣 1件(通院時の付き添い)
- 派遣調整 2件

11-1月のミーティング日程

午前ミーティング(偶数月第1木曜 11:00 / 奇数月第1土曜 11:00)
11/6(土) 12/2(木) 1/15(土)
木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング(毎月第3木曜 18:30)
11/18(木) 12/16(木) 1/20(木)

バディの現場から

9月に通院時の付き添いに関する新規依頼が1件ありました。また、現担当者の活動休止で2件の派遣調整を行っています。バディ・ワークショップを11/23(火・祝)に開催し、新たなスタッフが増員される予定です。ミーティング等の場でお会いすると思いますので、よろしくお願いします。

事務所の移転に伴い、10月以降はミーティングの開催場所が変更になります。詳しくはコーディネーターまでご連絡ください。

また、1月の午前ミーティングですが、都合により、第1土曜日から第3土曜日に変更になりました。お間違えのないよう、よろしくお願いします。(報告:牧原)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規) (*ファシリテーターなど)	
7月	26日	201名	(8名)	(12名)
8月	12日	91名	(4名)	(5名)
9月	6日	42名	(2名)	(8名)

(*はファシリテーター、web NEST運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

8/23からオープン・スペースとカフェ・ネストを休止しているため、9月のオープン日数はプログラムのみとなります。

カフェ・ネスト

7月:4回 59名 8月:2回 33名

ピア・グループ・ミーティング(PGM)

- 新陽性者PGM第54期(参加者6名)
7/3 7/17(修了)
- 新陽性者PGM第55期(参加者7名)
7/24 8/7 8/21 9/4(修了)
- 陰性パートナー・ミーティング
7/10(6名) 9/11(3名)
- ミドル・ミーティング
7/10(13名) 9/11(14名)
- もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)
9/2(7名)

学習会/イベント

- ストレスとうまくつきあうためのワーク第11期-3
7/26(7名)
- ストレスとうまくつきあうためのワーク第12期-1
9/27(4名)

ミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

- 新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
7/22(5名、3名) 9/6(5名、6名)
- web NEST運営委員会
7/9(2名、2名) 8/20(3名、2名) 9/24(2名、2名)

ネスト・ニュースレター

7/16:7月号発行 8/11:8月号発行 9/13:9月号発行
(報告:はらだ)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS 電話相談

7月 9件 (1日平均1.80件)
8月 15件 (1日平均3.75件)
9月 5件 (1日平均1.25件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

7月：0件 8月：0件 9月：0件


夏はアウトリーチの季節

今年は復活した東京プライドパレード、恒例の東京レインボー祭り、初開催の Gaysian Games などの大規模イベントで戦略研究のアウトリーチが行われました。

また、「できる！」キャンペーンの実施に伴い、月1回、都内のハッテン場向けのアウトリーチにも加わっています。8月分の資料を7月31日に、9月分の資料を9月4日に配布しました。

これらの配布資料の事前セット作業や、配布先となるハッテン場への協力依頼などの作業でも、Gフレメンバーが他団体のスタッフとともに活動しています。

くわしくは4ページをご覧ください。 (報告：sakura)

 HIV陽性者への相談サービス

相談実績2010年7～9月

	7月	8月	9月
電話による相談	135	142	138
対面による相談	59	44	34
E-mailによる相談等	121	115	120
うち新規相談	39	28	25

メール新規は含まず

7～9月の新規相談者の属性(N=92)

- 陽性者： 47人(男性：43 女性：4)
 - パートナー： 12人(男性：6 女性：6)
 - 家族： 9人(男性：4 女性：5)
 - 専門家： 8人(男性：3 女性：5)
 - その他： 16人(男性：11 女性：5)
- その他には判定保留、友人も含む

7～9月新規相談者の情報源(N=92)

WEB(携帯含)	38件	MSW	2件
以前から知っていた	6件	その他医療従事者	2件
陽性者	5件	保健所/検査所	1件
テレビ	5件	看護師/コーディネーター	1件
パートナー	3件	大阪の電話相談	1件
知人	3件	他の電話相談	1件
拠点病院	3件	上司	1件
医師	3件	雑誌	1件
東京都電話相談	3件	ゲイバー	1件
家族	2件	地域支援班研修	1件
友人	2件	不明	7件

7～9月新規相談の内容(N=92)

【ミーティング/ネスト利用等】

- ・数週間前にパートナーの陽性が判明。陰性パートナーミーティングを希望。
- ・(陰性パートナーから)パートナーはアジア人。本人からぶれいすのことを聞いた。
- ・PGMオリエン。職場と家族には通知した。
- ・(母から)子どもの帰省時に身障手帳や薬を見つけてしまい判った。(東海)
- ・他の陽性者と話をしてみたい。ネスト利用希望。(3件)

【ぶれいす東京への参加、サービス利用】

- ・数日前に陽性と判明。面談希望。
- ・テレビを見て連絡。いろいろなことを相談したい。(九州/沖縄)
- ・友人に紹介され連絡。面談希望。
- ・(母から)テレビを見て連絡。今度本人が服薬をする。面談を希望。
- ・病院のスタッフにボランティアしたいと相談したら、ぶれいすの情報もらった。
- ・誰にも話をせずがんばってきたが、今の状態を受け入れられずにいる。
- ・サイトメガロと診断されHIVの可能性があるとされた。検査待ちの段階。
- ・(女性から)同性の陽性者の話し相手が欲しい。
- ・最近になって孤独感に苛まれるようになった。他の陽性者と話をしてみたい。

【検査や告知】

- ・迅速検査で判定保留中の不安。
- ・昨日告知された。きっかけは市区町村の健診。
- ・確認検査待ち。田舎のために通院先などの相談。(中国/四国)
- ・保健所で告知。ネットで調べた近医に発症していなければ治療が出来ないと言われ不安。(東海)
- ・(母から)医師には病気以外のことは相談できないため連絡をした。(北海道/東北)
- ・先週、大学病院で陽性と判明。時間が経つにつれどんどん怖くなってきている。
- ・本日陽性と判明。予想もしなかった結果に驚いている。どうしよう。
- ・ゴム無し行為があり、不安だったため迅速検査を受けた。弱陽性とされたがどんな意味か。
- ・(陽性者から)友人が検査に行き、陽性ではないかと不安になっているので相談したい。
- ・保健所で検査を受けたら陽性の可能性がかなり高いと言われた。面談を希望。
- ・一般病院から退院一日前に告知を受けた。拠点病院を紹介してもらったが、行くのが怖い。

【人間関係】

- ・パートナーが陽性と判明。SEXを求めてくるため、どのような行為が感染につながるか。
- ・(きょうだいから)つい最近陽性がわかった。症状としてどれくらいの状態か知りたい。(近畿)
- ・(妻から)数ヶ月前、夫から陽性と告知された。寝られず、つらい状態が続いている。
- ・友人の紹介でつき合おうと思っている人がいる。結婚となった場合、子作りなどはどうなるのか。
- ・パートナーからフェラチオされた。パートナーへの感染の可能性はあるか。
- ・(妻から)夫が飲んでる薬をネットで調べたらHIVと判った。突然倒れたりしないか心配。
- ・元パートナーから検査を受けるよというメールが来て混乱している。(東海)
- ・知人が元カレから陽性と通知された。知人の検査結果が出

たらどのように声をかけたらいいか。

- ・友人から発症してエイズが分かったと聞いて混乱している。どうしたらいいか。〔東海〕
- ・判明してから数年経ち服薬中。自分が他の人へ感染させてしまう可能性について聞きたい。
- ・パートナーが陽性と判明してパニックに。遠距離なためケアができない。どうしたらいいか。
- ・部下(同僚)が陽性と判明。今後どうしたらいいか。(上司/上司の家族/同僚 計3件)〔首都圏/近畿〕

【心理的なこと】

- ・長年つき合った彼氏と別れ、メンタル面の失調で失業。
- ・精神科の薬の飲み合わせを考えて検査をしたら陽性と判明。ひとりしているとパニックになる。〔近畿〕
- ・パートナー候補が数ヶ月前に陽性と判明。精神的に不安定。彼をどう応援したらいいか。〔中国/四国〕
- ・パートナーの感染が判明して数ヶ月。最近「うつ」と診断された。他の人がどうしているか知りたい。
- ・テレビを見て連絡。がんばりすぎていたかも。自己判断により治療中断をしている。

【医療など】

- ・術前検査で陽性と判明。手術はキャンセルとなったため、手術できる病院を HIVマップで調べた。
- ・元パートナーが陽性と判明。これから日本での通院を検討。日本の医療状況を知りたい。〔海外〕
- ・通院先とモメて転院しようとしたが紹介状がないために断られた。どうしたらよいか。(紹介者/本人 計2件)
- ・最近服薬開始。飲み合わせについて Dr. にも確認はしているが不安。
- ・CD4とウイルス量の意味がわからない。
- ・(きょうだいより)刑務所で適切な医療が受けられていないと本人から手紙が来た。〔近畿〕
- ・(妻から)夫の感染のことで相談。てんかん発作もあり、仕事に差し支えがないか心配。
- ・現在仕事をしながら服薬中。薬の耐性について教えて欲しい。〔甲信越/北陸〕
- ・歯医者に行きたいと思っているが一般の歯医者に行ってもいいだろうか。
- ・服薬を医師から勧められている。服薬後の生活はどうなるだろうか。(父/母 計2件)
- ・告知から十数年。過去に服薬を自己中断したことがある。再度服薬するにあたり相談したい。
- ・(女性から)話し相手があまりいないこと、拠点病院の経験が少ないことが不安。〔中国/四国〕

【生活や福祉】

- ・(きょうだいから)食事がとれずに痩せていくのが心配。HIVの他に病気である可能性はないか。
- ・前回の入院費がとて高額。他陽性者から高額療養費を教えてもらったので詳しく知りたい。(2件)
- ・家族が陽性と判明。身障手帳や障害年金のことを聞きたい。〔近畿〕
- ・外国人の知り合いが陽性者。日本に在住予定だが薬は持ち込めるだろうか。

- ・これから服薬開始。他の人がどのような飲み合わせをしているのを知りたい。
- ・web NEST質問集を見て、健康保険の付加給付について詳しく知りたい。
- ・郵送で自立支援の申請をする予定。書き方が分からないため教えて欲しい。〔中国/四国〕
- ・術前検査で陽性と判明。仕事は手術で退職したため、経済状況が悪化。
- ・十数年前に告知を受けた。保険証がなく受診していない。どのように生活していったらいいか。

【就労】

- ・休職中のため、上司を含む周囲の人に対する通知についての相談。
- ・会社の健診で陽性と判明。会社に陽性とバレてしまうか心配。
- ・(上司から)従業員が陽性。切り傷が絶えない職場のため、他者への感染が心配。
- ・告知は数年前。今回、体調不良で職場を休んだために医師が診断書を「ノロ」疑いと作成してくれた。しかし、診断書により職場が混乱し退職となる。今後の就労相談。
- ・(母から)現在通院している病院のことや病気が就職に影響するのかを知りたい。〔北海道/東北〕

【専門家】

- ・(MSWから)更生医療・高額療養費についてふれいすに相談した患者から連絡。詳細を知りたい。
- ・(生活保護担当者から)エイズ脳症により痴ほう症状がすすんでいる陽性者の受け入れ施設の相談。
- ・アジア人でオーバーステイのため、帰国支援に関する問い合わせ。(医師/MSW/本人 計3件)
- ・(MSWから)ふれいすのプログラムを確認したい方がいる。本人が参加できるプログラムがあるか。
- ・(警察から)救急搬送中の本人が電話をしたいと言っていたため連絡。
- ・(救急の医療機関から)警察から入院させてほしいと依頼されたが、本人が入院を拒否したため受けることができないとの連絡。
- ・(ケアマネージャーから)脳症の方の在宅支援を行なうことになった。過去に同じようなケースがあったら教えて欲しい。

【その他】

- ・親戚が陽性と判明。今度遊びにくるが、子どもが小さいため注意することはあるか。
- ・ヨーロッパから陽性の友人が来日予定。子どもが陽性だった場合、学校に伝える義務はあるか。
- ・薬物依存の傾向があるが、どこに相談したらいいのかわからないので電話をした。

(報告：牧原/福原/生島/山本/福長/神原)



研究部門

厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)

「地域における HIV陽性者等支援のための研究」

(研究代表者：生島 嗣)

- ・ウィーンで開催された第18回国際エイズ会議に参加し、「HIV陽性者の生活と社会参加に関する調査」の結果をもと

に、3題のポスター発表を行いました(7/18~23)。くわしくは、3ページの記事をご覧ください。

- ・本年度第2回の班会議を行い(8/29)、大木幸子さん(杏林大学)申請の成果発表会(10/18、11/26)の準備を進めています。くわしくは、研究班のWebサイト(<http://www.chiiki-shien.jp/>)をご参照ください。
- ・東京都のハローワーク障害者就労支援業務担当者向けの研修で講義を行った他(9/15)、東京障害者職業センターからの依頼に応じ、HIV陽性者を雇用する企業の社員研修などを実施しています。
- ・昨年度より制作している支援者向けDVD教材用に高久陽介さん(日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス)と若林チヒロさん(埼玉県立大学)の講義、生島によるイントロダクションの撮影を終え、DVDが完成しました。「地域におけるHIV陽性者等支援のための研修会」(10/25)、11月の日本エイズ学会でも配布する予定です。(報告:大槻)

エイズ予防のための戦略研究(研究リーダー:市川誠一)

MSM首都圏グループ

- ・エイズ発症予防を呼びかける、「できる!」キャンペーンのグッズを6月より継続して制作しています。くわしくは、HIVマップ(<http://www.hiv-map.net/>)をご覧ください。
- ・「できる!」キャンペーングッズの配布をPrelude(7/17)、Tokyo Pride Parade(8/14)、東京レインボー祭(8/15)、Gaysian Games in TOKYO 2010(9/19)などで行ないました。また、都内ハッテン場向け配布チーム「ハッテン

できる!」をぶれいす東京やRainbow Ringのメンバーなどで構成し、8月より活動を始めています。くわしくは4ページの記事をご覧ください。

- ・ゲイバーのスタッフ向け季刊誌「TOMARI-GI」8号を発行しました。
- ・MEN-Doキャンペーン携帯電話アンケートを文化系ゲイサークルとLiving Together計画(7~9月)、スポーツ系サークル(9月~11月)で実施しています。

(報告:岩橋)

MSM京阪神グループ

「サポートプロジェクト関西(POSP)」

- ・POSP電話相談
7月:2件 8月:1件 9月:0件
- ・ひよっこクラブ
第3期 6/20、7/4、7/18 参加:4人
第4期 10/3、10/17、10/31 参加予定:3人
- ・たんぼ関西版会議:8月5日に開催。
- ・PLuS+(10/10)への参加:Follow、CHARM、POSPで共同のブースを出展。
- ・PLuS+でのHIV検査に合わせて、臨時でPOSP電話相談を実施。
- ・日本エイズ学会での発表予定。

(報告:生島)

ぶれいす東京の事務所が引っ越しました

ぶれいす東京の事務所が2010年10月11日(月・祝)より下記に移転しました。JR山手線・西武新宿線 高田馬場駅(早稲田口)、東京メトロ東西線 高田馬場駅(1番出口)より徒歩4分のところです。



ネスト・プログラムの一部が変わりました

- ・2010年8月23日より2つのプログラムを休止しています。

オープン・スペース
カフェ・ネスト

- ・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)、ミドル・ミーティング、Women's Salon、シリーズ「専門家と話そう」、ストレスとうまくつきあうためのワーク、もめんの会、陰性パートナー・ミーティング等は従来どおり実施しています。
- ・2011年1月より、ネスト・プログラムの利用は登録制となります。そのための説明会を11月~12月に順次行います。詳しくはウェブサイト、ニュースレター等で順次お知らせします。

編集後記

- ・食べ過ぎかなと思う時、飲む点滴と言われてる玄米甘酒を飲んで胃腸を休めます。栄養もあるし、甘くて美味しいのでおすすめです。(こんどう)
- ・事務所の引っ越しは、昨年度のFITチャリティ・ランからの寄付によって実現した。外資系金融会社を中心に開催されるこのイベントは、募金額の9割を寄付先に手渡すことをポリシーにしつつ、運動会のような楽しさと社会貢献を両立する素晴らしいイベントだ。(いくしま)
- ・夜は冷え込むことが多くなり、自分の部屋では早くもファンヒーターを出したりして冬支度を始めました。草花も動物も身を縮めてエネルギーを蓄える季節。ヒトにもそんなサイクルがあっている? (やじま)

編集・発行: 特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403

TEL: 03-3361-8964 (平日12~19時)

FAX: 03-3361-8835

E-mail: info@ptokyo.com

ぶれいす東京 HP: <http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>

web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>